

第4回URAシンポジウム／第6回RA研究会合同シンポジウム
URA事業採択校セッション5
「研究戦略推進支援におけるURAの役割」

京都大学の事例からURAの役割を考える

2014年9月18日

京都大学学術研究支援室
田中耕司

**京都大学には、
明文化された研究推進戦略はない**

**かといって、戦略なしに
URA活動が展開しているわけでもない**

かつて、「京都大学学術研究推進戦略」が検討されたことがあった。例えば、

1. 研究推進**戦略**
 - ・ 基盤的研究経費の安定確保
 - ・ 世界的卓越研究への支援
 - ・ 萌芽的・融合的研究への継続的支援
 - ・ 重点化研究領域への支援
2. 人材育成・活用**戦略**
3. 研究の国際化**戦略**
4. 産学官連携**戦略**
5. 研究費獲得**戦略**
6. 研究基盤整備**戦略**

について検討されたが、「**戦略**などという**武張った言葉**は大学に馴染まない」として、明文化には至らなかった。

研究推進戦略の策定には至らなかったものの、

「京都大学基本理念」（平成13年12月制定）では、

京都大学は、創立以来築いてきた自由の学風を継承し、発展させつつ、多元的な課題の解決に挑戦し、地球社会の調和ある共存に貢献するため、自由と調和を基礎に、ここに基本理念を定める。

以上の前文に続いて、「研究」について

「研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた研究活動により、世界的に卓越した知の創造をおこなう」

「総合大学として、基礎研究と応用研究、文科系と理科系の研究の多様な発展と統合をはかる」

と定めている。

「第二期中期目標・中期計画」では、

- ・未踏の知の領域を開拓してきた本学の伝統を踏まえ、研究の自由と自主を基礎に、高い倫理性を備えた先見的・独創的な研究活動により、次世代をリードする知の創造を行う。
- ・総合大学として、研究の多様な発展と統合を図る。

研究に関する目標

(1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標

- ・学問の源流を支える基盤的研究を重視するとともに、学問体系の構築と学術文化の創成を通じて地球社会の調和ある共存に資する。
- ・先端的、独創的、横断的研究を推進して、世界を先導する国際的研究拠点機能を高める。

(2) 研究実施体制等に関する目標

- ・教員が研究教育に専念できる環境を整備する。
- ・優秀な人材、とりわけ次世代を担う若手研究者の発掘と獲得並びに育成を進める。
- ・学術・情報資源を充実させ、研究支援機能を強化する。

(3) 研究の国際化に関する目標

- ・在外研究組織等との研究連携体制を整備する。

以上の理念を踏まえて、京都大学では研究推進に携わる専門職としてのURAを任用し、URAシステムの整備を推進

- ・ 文科省によるURAシステム整備事業による**学術研究支援室**の整備（平成23～25年度）
- ・ 自主経費による**部局URA**の配置（平成24～25年度）
- ・ 研究大学強化促進事業によるURAの増員と**京都大学URAネットワーク**の構築（平成25年度～）



現在、本部・部局URA室に50名規模のURAを配置して、学内の他の研究支援組織として、URAネットワークを運営

以上の理念を基礎に、 研究大学強化促進事業で掲げた目標

TOP10を**狙える**大学が
TOP10を目指す

ランキング向上のために
国際共同研究、国際共著
論文を増やす



アカデミアと社会の垣根を越える
(イノベーションの創出)

学問領域を越える
(未踏領域・未科学への挑戦)

地域・文化を越える
(国際化の推進)

「越境」する知の拠点

研究力強化に向けてさまざま
な「境界」を越える：
「越境」「跨境」の推進

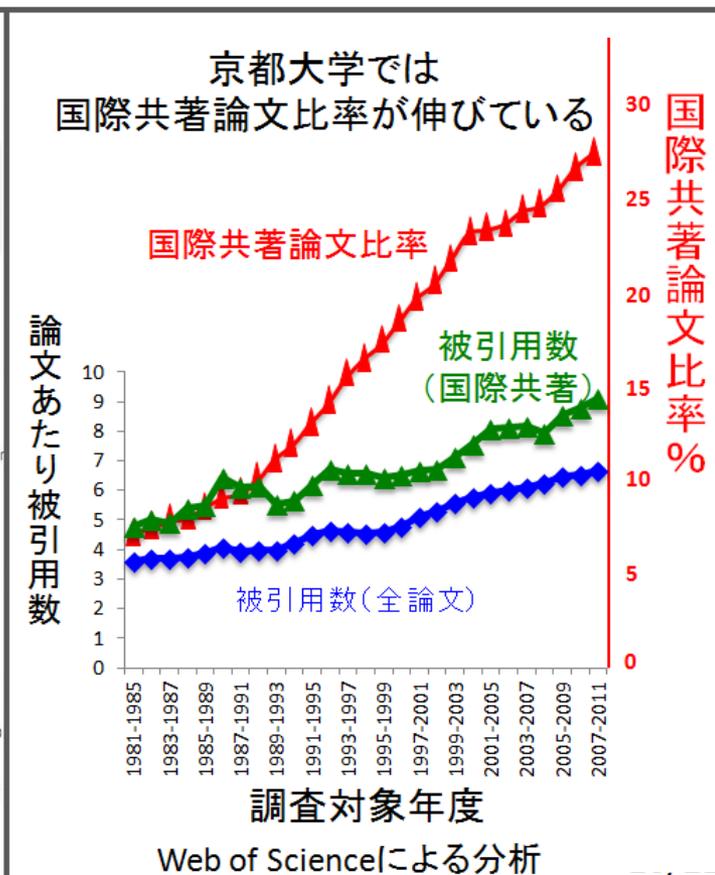
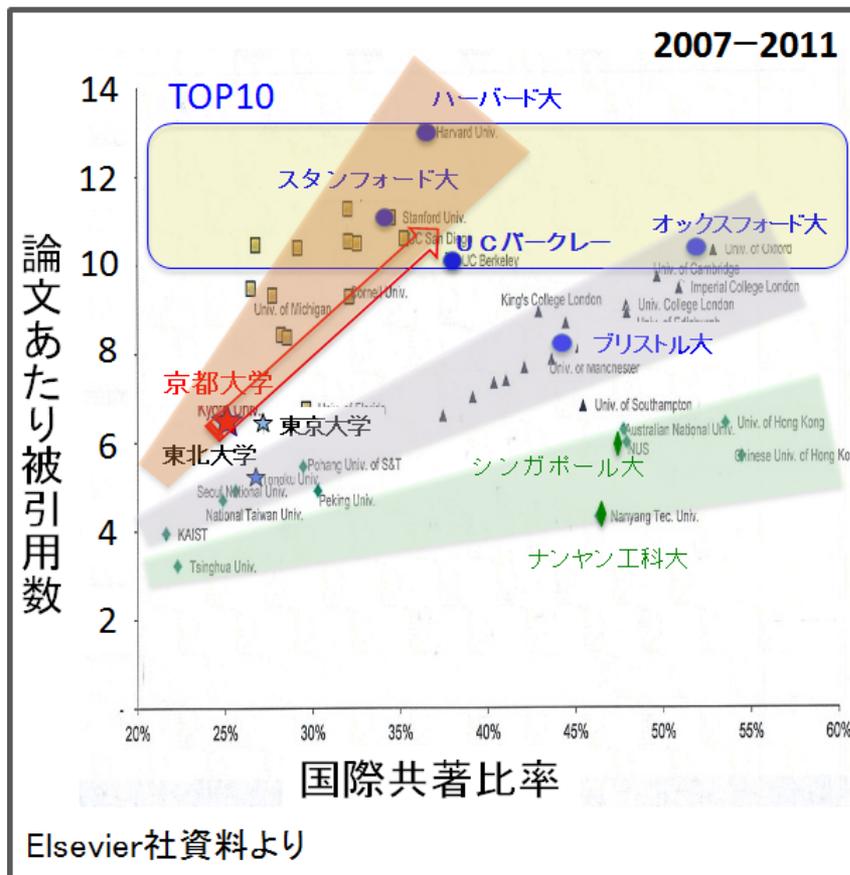
世代と性別を越える
(人材多様性の確保)

組織・制度の壁を越える
(持続的全体最適化)

計量書誌分析で見える京都大学の強み・弱み

- ・京大は国際共著論文比率が海外上位大学に比べ低め。
- ・京大の国際共著論文比率は伸びている。

⇒ **国際共同研究を増やす**



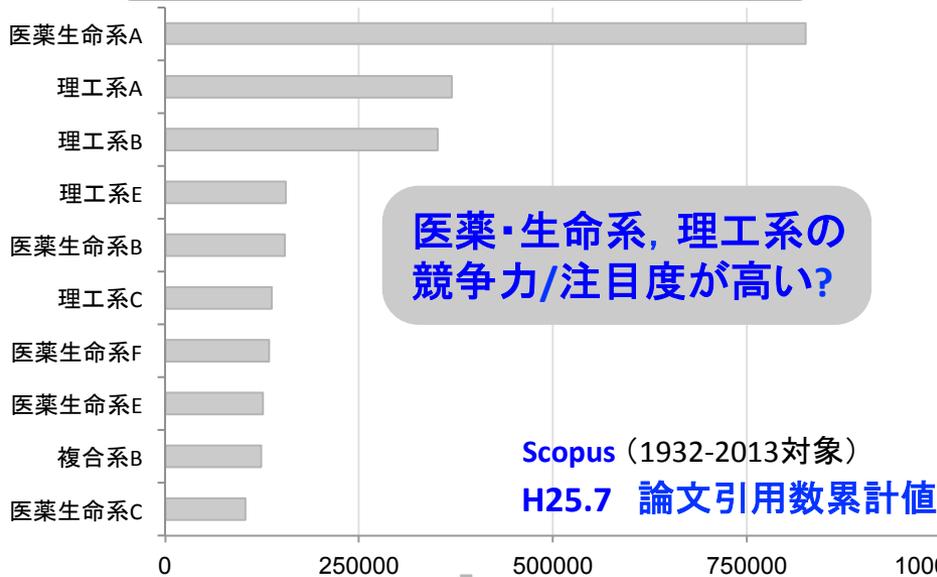
もうひとつの計量書誌分析で見える京都大学の強み

Bibliometrics
(引用数による分析)

vs. Webometrics
(ダウンロード数による分析)

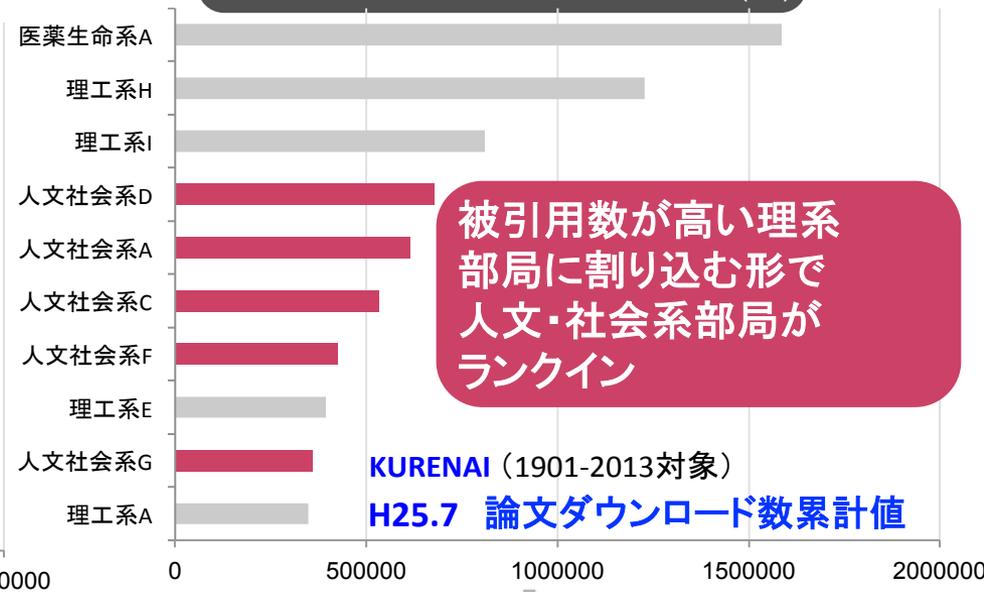
京大の部局別論文引用数を見ると…

被引用数TOP10部局 on Elsevier (Scopus *1)



京大リポジトリ掲載論文のダウンロード数を見ると…

ダウンロード数TOP10部局 on KURENAI(*2)



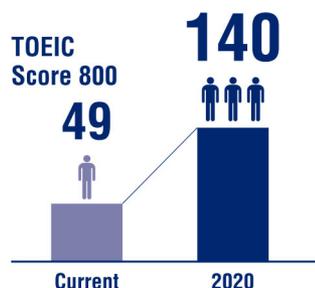
人文・社会学分野にも理工系以上に注目度大の研究あり

京都大学の新たな国際戦略の策定（2013年） 「2xby2020」（Double by 2020）



研究力の国際化に向けた重点施策

学生・教員・職員 の国際化



大学ランキングの向上

* THE...Times Higher Education



交流協定締結数の拡大



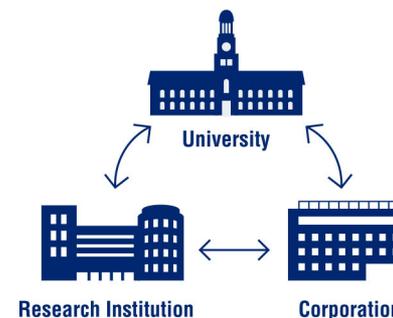
Academic Exchange Agreements

93 \nearrow 200

Student Exchange Agreements

69 \nearrow 150

海外大学・研究機関・ 企業との連携強化



研究力強化に向けた実施事例

国際・学際・人際への推進

国際共同研究、国際共著論文の増加に向けて

- 国際共同シンポジウムの開催

Bristol - Kyoto Symposium / Kyoto University - National
Taiwan University Symposium / Sweden - Kyoto Symposium
Swiss - Kyoto Symposium

- 教員・学生・職員の海外派遣プログラムの実施

「ジョン万プログラム」⇒「新ジョン万プログラム」

- 「知の越境」融合チーム研究プログラム（SPIRITS） 「国際型」の実施

異分野融合のための「越境」の仕掛け

- 「知の越境」融合チーム研究プログラム（SPIRITS） 「学際型」の実施

- 京都大学研究開発プログラムの企画・運営

「いしずえ」プロジェクトの推進
英文校閲支援の実施

- 分野横断研究に向けたワークショップ開催支援事業

「越境」のもう一つの局面： 事務組織の「縦割り」をつなぐ役割の増大

競争的資金のPre-Award、Post-Award支援にとどまらないURA業務の拡大

- 1. 大学の組織改革・教育改革に向けた大型事業への支援業務の増大**
 - ・リーディング大学院プログラムへの支援
 - ・「大学の世界展開力」
 - ・SGU/COC/GSCの申請・運営支援
- 2. 大学の国際化戦略策定に伴う国際業務の拡大**
 - ・海外拠点の運営支援（URAの長期駐在、拠点運営全般の支援）
 - ・国際シンポジウムの企画・運営支援
 - ・大学間交流協定の締結支援
- 3. 研究活動のアウトリーチに加え大学の広報活動への支援業務の拡大**
 - ・研究成果の国際発信だけでなく、大学HPの英文化支援
 - ・大学によるアウトリーチ活動への支援

教育分野のURAとしてのUEA (University Education Administrator) /
IEA (International Education Administrator)が必要となっている

以上の事例から考えられる 研究大学におけるURAの役割とは

1. 一層のスキル強化によるPre-Award、Post-Award業務の高度化を通じた研究支援者としての役割：研究者からの信頼獲得
2. 大学の「研究戦略」推進にあたっての「縦割り」の克服に向けたメディエーターとしての役割：学内部局・事務組織との横断的連携
3. さまざまな局面で大学の国際化に貢献しうる、教職員では対応できない（の負担を軽減する）専門職としての役割：国際URAの育成

URAはあくまでも研究戦略推進支援を本来業務とするものの、早晩、研究戦略そのものの立案にも携わることができるだけの力量をもったシニアURAの育つことが期待される